



明化の教育

4月号（第499号）
令和4年4月6日
文京区立明化小学校
校長 熊倉 勝

令和4年度の初めにあって

校長 熊倉 勝

令和4年度が始まりました。1年生75名を迎え、全児童332名でのスタートです。新型コロナウイルス感染症が流行して3回目の春ですが、収束の見通しがたちません。引き続き、感染症対策を行いながらの教育活動となりますが、やるべきことをしっかりと見極め、すべての子供たちが輝く笑顔で生活できるよう、教職員一同全力で教育活動に取り組んで参ります。

教育目標

明化の子どもはやり通す

- やり通す ころとからだ
- ◎ 人のため 進んでだせる ことばと力（重点目標）
- 気づき 考え つくり出す力

この教育目標の実現に向け、今年度も「子供のためにやり通す学校 一豊かな体験活動と教養教育を中心とした『明化ブランド』の教育の推進」を学校経営の基本方針とし、教育活動を進めるに当たっては、次の3点を大切にしていきたいと考えます。

① 教育の基盤は、信頼に支えられた人間関係

「教育は児童理解に始まり、児童理解に終わる」と言われます。子供一人一人のプロセスに合った指導を進めることは容易ではありませんが、一人一人を理解しようと努力することは必ずできます。また、人の心を十分理解することはできなくても、その人の心に共感しようとするのは必ずできます。まず、指導者が共感することで、子供は「この人は私を受け止めてくれる。」と感じます。そこに分かり合えるという「一体感」が形成され、この中で人と人の信頼関係は生まれてくると信じています。教師と子供の間で信頼が双方向に存在するとき、信頼関係が成立すると言われます。この双方向の信頼の中で、教師は子供を信じ、子供は安心感をもつことができるようになり、学習は促進されていくものと考えます。基本的なしつけは必要ですが、人は「教え込む」ことで学習するものではありません。「学ぼう」とする意識をもつことで学習が始まると考えています。そのためには、まず教師と子供が互いに認め合うことから始めていきます。

② 学習指導の基本は、学習者の学習意欲

問題を解決するとき、提示された問題に対して解決意欲があるかないかでは、その解決姿勢に差が出てきます。子供が問題を解決するとき、もっとやってみたいと思う学習指導を行うことを大切にしたいと思っています。そのためには、「解いてみたい」「やってみたい」と思うような問題の提示が必要です。また、解決途中でつまづいた時には、「間違いの中に宝物がある」という感覚を育てていきたいと考えています。「なすことによって学ぶ」ことをベースにして、取り返しのつかない失敗以外は、その失敗を生かしていくことで、次の活動への意欲につなげていきます。

③ 教育の評価は、長いスパンでの変容

子供の行動を一つの場面だけで評価するのは、決めつけにつながり危険です。また、その中で全員を同じように評価することは困難です。学習指導の1時間の中だけで子供を評価することは一面的になることがあります。学習指導の場面では、子供の姿の全体的な評価に近付けるためにいろいろな場面で、長い時間をかけて評価していきたいと考えています。

本年度も様々な教育活動を保護者・地域の皆様と共に着実に進めて参ります。ご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。